



（写真）大統領府 “ベネズエラで新型コロナウイルス、初の感染者を確認、緊急事態を宣言”

2020年3月13日（金曜）

政治

- 「[ベネズエラ コロナウイルス感染を確認](#)
～3月15日時点で感染確認者は17名に～」
- 「[マドゥロ大統領 緊急事態令を発令](#)
～学校休校、公共交通機関のマスク着用義務等～」
- 「[グアイド政権 反政府デモの予定を見合わせ](#)」

経済

- 「[原油価格急落 1バレル26.94ドル](#)」
- 「[原油価格下落で中国への債務デフォルトか](#)」

社会

- 「[チリ在住ベネズエラ人 前年比57.6%増](#)」

2020年3月14～15日（土・日）

政治

- 「[カラカス及び6州の移動を制限](#)
～金融機関、娯楽商業施設の営業停止も～」
- 「[コロンビア 感染防止のためベネ国境を封鎖](#)」
- 「[グアイド政権 Covid-19 専門委を発足](#)」

経済

- 「[パナマ、ドミニカ共和国便の運航停止](#)
～エクアドルは全世界からの入国を禁止～」
- 「[16日は金融機関閉鎖 その後も時間変更](#)」

社会

- 「[スーパー 自宅待機のため買い物客にぎわう](#)」

2020年3月13日（金曜）

政 治

「ベネズエラ コロナウイルス感染を確認
～3月15日時点で感染確認者は17名に～」

3月13日 マドゥロ大統領は「カデナ（国内のラジオ、テレビを強制的に政府の発表のために使用すること）」を通じて、ベネズエラで初めて新型コロナウイルス（Covid-19）感染者が確認されたと発表した。

発表当時は2名だったが、3月14日に追加で8名、15日に更に7名の感染を確認。15日時点で合計17名の感染者が確認されている。

最初に発表された2名は、イベリア航空でスペインからベネズエラに到着したベネズエラ人男性2名。

チャカオ市長は感染した2名は3月5日～8日にかけてチャカオ市に滞在していたと発表している。
ただし、エルアティージョ市長も感染した1名はエルアティージョに住んでいたと発表しており、情報は一致していない。

いずれにせよ、チャカオ市、エルアティージョ市は近隣地で日本人も滞在する地域となり、出張中に感染する可能性は否定できない。

発表翌日の14日、ホルヘ・ロドリゲス情報通信相は新たに8名の Covid-19 感染確認を発表した。

感染者は男性6名、女性2名。

3名は、スペイン経由でベネズエラに入国。

2名は、米国経由で入国。

1名は、コロンビア経由で入国。

2名は、直近では外国に渡航しておらず、国内での感染ということになる。

感染者は、アラグア州、アプレ州、コヘーデス州にそれぞれ1名。他の感染者はスペインーベネズエラ便飛行機の乗組員だったという。

そして、15日にマドゥロ大統領は更に7名の感染確認を発表し、現在に至っている。

4名は、欧州経由でベネズエラに入国。

1名は、コロンビア経由（ククタ）で入国。

残り2名は、明らかにしていない。

「マドゥロ大統領 緊急事態令を発令
～学校休校、公共交通機関のマスク着用義務等～」

3月13日 マドゥロ大統領は、Covid-19 感染確認を受けて「緊急事態令」を発令した。

「緊急事態令」は憲法に定められている法令で、緊急的な事態に対処する必要がある場合は、既存の法的枠組みを飛び越えて、大統領権限で特定のテーマについて、期限を設けて必要な法令を定めることができるというもの。

余談になるが、ベネズエラでは経済危機を理由に「緊急事態令」を何年も継続中。既存の法規範を越えて大統領権限での制度施行は常態化している。

なお、本来「緊急事態令」の発令は国会過半数の承認が必要となる。しかし、マドゥロ政権側は国会の権限を無効化し、制憲議会と最高裁が承認する形で経済緊急事態令を継続している。

既に3月12日にコロンビア・欧州便の30日間運航停止を発表。日本・韓国・イランからの渡航者に入国制限をかけた（「[ベネズエラ・トゥデイ No.418](#)」参照）。

3月13日時点では、以下のような政策を発表した。

- ・ 3月5日～8日にかけてイベリア航空を利用した乗客の隔離検査
- ・ 3月中に欧州からベネズエラに到着した人に対して、2週間の外出禁止令
- ・ 全国学校の休校（3月16日から休校）
- ・ 公共交通機関でのマスク着用の義務化
- ・ 空港でのマスク着用の義務化

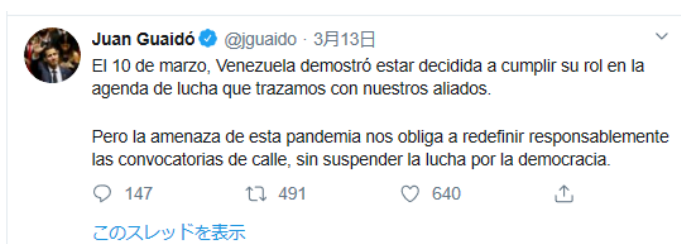
「グアイド政権 反政府デモの予定を見合わせ」

グアイド議長は、3月10日に反政府デモを実施した。

1カ月近く準備をかけて呼びかけた反政府デモで、同日の抗議行動が終了した当日は、3月12日にもデモを呼びかけ、その後も継続的にデモを行うと宣言していた（12日のデモは、ほとんどメディアで報じられておらず、小規模なものだったと思われる）。

しかし、3月13日に Covid-19 感染確認を受けて、大衆が集まるイベントを自粛せざるを得ない状況になってしまった。

3月13日 グアイド議長はツイッターで「3月10日、ベネズエラは我々の同盟国とともに戦いの覚悟を示した。しかし、感染症の脅威は我々の街頭での責任ある行動の再調整を余儀なくした。しかし、民主主義への戦いはあきらめない。」と投稿。反政府デモを自粛する姿勢を示した。



経 済

「原油価格急落 1バレル26.94ドル」

石油省は、3月9日～13日の週のベネズエラ産原油平均価格を公表した。

3月9日～13日の平均価格は、1バレル26.94ドル（234.37人民元）。先週が1バレル40.23ドルだったので、33.1%減と大幅に下落したことになる。

ベネズエラ産原油に限らず、WTI 原油、ブレントの価格も下落している。

ベネズエラ石油省の公表では、同週の WTI は先週比17.7%減の1バレル34.25ドル、ブレントは先週比18.4%減の37.17ドルとなっている。

3月6日に開催された OPEC プラスでロシアがサウジアラビアの追加減産の提案に難色を示し、交渉が暗礁に乗り上げた（「[ベネズエラ・トゥデイ No.416](#)」参照）。

3月には協調減産の期限が満了する中で、サウジアラビアやロシアなど主要産油国の増産ムードが高まっていることが価格下落に拍車をかけた。

「原油価格下落で中国への債務デフォルトか」

石油産業はベネズエラの生命線であり、今回の原油価格下落はベネズエラ経済に大きな打撃を与える。

米国の経済制裁により石油産業が十分に活動できない中、マドゥロ政権にとっては追加の極めて大きな打撃となりそうだ。

現地経済調査会社「Ecoanalitica」のルイス・アルベルト・バルセナス氏は、現地経済メディア「Banca y Negocios」のインタビューを受け、今回の原油価格下落によりベネズエラの対中国債務の返済が滞る可能性があるとの見解を示した。

バルセナス氏は、今回の原油価格下落を受けて、年間で45億ドル～75億ドルほどの外貨収入減少が予想されると述べた。

収入減に対して、何らかの対応をする必要があり、中国に対して原油輸出で返済している債務のデフォルトが起きるかもしれないとした。

「Ecoanalitica」によると、2020年にベネズエラは中国に対して32億ドルを返済する必要があるという。

ここ1年程、中国政府とマドゥロ政権の関係は希薄となっている。

マドゥロ大統領は今でも中国を友好国と述べているが、政治経済的な協力関係に関する発表は少ない。

「中国天然気集団（CNPC）」は、ベネズエラでの活動を縮小しており、原油取引も「Rosneft」経由にシフトしているようで、中国の貿易統計を見る限りこの数カ月はベネズエラからの直接の原油輸入は停止している。

中国への対外債務支払いを停止するデメリットと、（既に希薄になりつつある）中国との関係を維持するメリットを天秤にかけた結果、返済しないという判断があっても不思議ではないだろう。

妥当なところは、債務のリスク（返済期限の延長）で合意するところかもしれない。

社 会

「チリ在住ベネズエラ人 前年比57.6%増」

チリ政府は、チリ在住外国人に関する統計を公表した。

2019年、チリへ新たに移住した外国人数は149万2,522名。

18年の移住者数は125万365名だったので、昨年から24万2,157名（19.4%）増えたことになる。

チリ外国移民局のアルバロ・ベジョリオ氏は、ベネズエラ人移民の急増について言及。

19年時点でチリに住んでいるベネズエラ人は前年比57.6%増の45万5,494名としている（つまり、18年時点では約29万人のベネズエラ人が住んでいたことになる）。

これまで、ペルー人移民がチリで最も大きな移民コミュニティだったようだが、現在はベネズエラ人がチリで最も大きな移民コミュニティになっているとした。

2020年3月14～15日（土曜・日曜）

政 治

「カラカス及び6州の移動を制限 ～ミランダ州 一般商業施設の閉鎖を命令～」

3月15日 マドゥロ大統領は Covid-19 の感染拡大を受けて、首都カラカスおよび Covid-19 感染が確認された6州を対象に隔離措置を取ると発表した。

隔離対象となった6州はラグアイラ州（バルガス州のこと）、ミランダ州、スリア州、タチラ州、アプレ州、コヘーデス州。

隔離措置は3月16日AM5時から始まり、同時刻以降、州をまたぐ移動が禁止される。

なお、アラグア州も Covid-19 感染が確認されている地域ではあるが、隔離措置から除外されている。

マドゥロ大統領の方針に合わせるかのように、各州知事らが Covid-19 に関する予防措置を発表している。

ミランダ州のエクトル・ロドリゲス知事は、ミランダ州非常事態宣言を発令。新たな発表がされるまで、集合イベント、教育機関、文化機関、スポーツ施設、レストラン、バー、博物館、大型商業施設、プール、夜間会館施設、映画館など生活に必須ではない全ての店舗の営業停止を命じた。

ラグアイラ州のカルネイロ知事も海岸でのイベント禁止を発表している。

「コロンビア 感染防止のためベネ国境を封鎖」

3月14日 コロンビアのドゥケ大統領は、Covid-19 感染拡大を阻止するためベネズエラとコロンビアの国境を全面封鎖すると発表した。

マドゥロ政権は、Covid-19 の感染防止に関して隣国ブラジルとコロンビアの協力を求めており、マドゥロ大統領はブラジル政府との接触に成功したと説明したが、コロンビアについては連絡を絶たれているとした。

今回の措置を受けて、デルシー・ロドリゲス副大統領、アレサ外相は一方的な封鎖措置を非難。国連に仲裁を求めた。

「グアイド政権 Covid-19 専門委を発足」

3月14日 グアイド議長は、Covid-19 感染拡大を防止するために「正当な政府医療専門家委員会」を発足した。同委員会は以下の業務を行うという。

1. Covid-19 に関する最新情報の発表。
2. 国内の全ての医療機関に医療情報を伝える。
3. 国民へ感染予防のための対策を紹介する。
4. 医療機関が集めた実績、情報を共有する。

加えて、グアイド政権はコロンビア政府など外国政府らと協力し、必要な対策と支援措置を検討していると発表した。

また、マドゥロ政権に対して Covid-19 感染防止のため、専門家からアドバイスを受け入れ、同時に人道支援を受け入れるよう要請している。



Juan Guaidó @jguaido · 3月15日

Anuncio al país que hemos instalado la Comisión de Expertos de la Salud del Gobierno Legítimo, que tendrá como principales funciones:

1) Acopiar y actualizar de forma permanente la información y conocimiento científico e internacional sobre el Coronavirus.



(写真) グアイド議長ツイッター

“Covid-19 専門家委員会を発足”

経 済

「パナマ、ドミニカ共和国便の運航停止

～エクアドルは全世界からの入国を禁止～」

3月14日 ホルヘ・ロドリゲス情報通信相は、Covid-19感染拡大を防止するため「ベネズエラドミニカ共和国便」および「ベネズエラパナマ便」の運航を30日間停止すると発表した。

両便の運航停止は即時発効し、3月14日20時以降、両国の移動を停止した。

今回の発表を受けて、パナマの「コパ航空」はパナマーベネズエラ間の運航停止を改めて発表している。



IMPORTANTE: Informamos a nuestros pasajeros con viajes planificados desde y hacia Venezuela, que el Gobierno de dicho país ha suspendido por 30 días los vuelos internacionales procedentes de Panamá. Conoce más, aquí: bit.ly/3aWNf1Y



Comunicado
Ciudad de Panamá, 14 de marzo de 2020

Copa Airlines informa que, de acuerdo con la comunicación oficial del **Instituto Nacional de Aeronáutica Civil de Venezuela (INAC)** emitido este sábado, 14 de marzo de 2020, por el Gobierno Nacional de la República Bolivariana de Venezuela, **los vuelos entre Panamá y Venezuela son suspendidos a partir de las 20:00 horas del sábado 14 de marzo de 2020.** La Aerolínea, en cumplimiento con leyes internacionales, debe acatar la medida de forma inmediata.

突然の運航停止は既にベネズエラへの旅行、帰国を予定していた人々の足に影響を与えた。

現地メディア「El Estímulo」によると、3月15日に帰国を予定していた148名のベネズエラ人が、今回の措置でベネズエラに帰国することが出来ず、パナマの空港で帰国待ちの状態だという。

コパ航空は「人道支援便」というスキームを検討しているようで、商業便の運航は見合わせるが、本国への帰国など人道的に必要な運航は、ベネズエラ政府側と協調し、柔軟性を持って対応するとの姿勢を示している。

なお、ベネズエラ側の決定ではないが、エクアドル政府は3月17日 AM0時から外国便を全面的に停止すると発表した。今回の措置は全世界を対象としており、ベネズエラも対象に含まれる。

エクアドル側の発表を受けてベネズエラの国営航空会社「Coviasa」は、グアヤキルーカラカス間、キトーカラカス間の運航停止を発表した。

従って、現在（3月15日時点で）Covid-19を理由にベネズエラ間運航が停止されているのは、コロンビア、欧州全域、ドミニカ共和国、パナマ、エクアドルということになる。

「16日は金融機関閉鎖 その後も時間変更」

3月15日 銀行監督局（SUDEBAN）は、3月16日は臨時で全国の金融機関を閉鎖すると発表した。

ただし、インターネット経由の送金、カード決済など通常の活動は可能。

また、SUDEBAN は、全国金融機関に対して Covid- 19 感染拡大防止のため、今後の金融機関稼働時間を AM 9 時～PM 2 時までに変更するよう要請した。

他、銀行は必要最低限の人員配置に留め、手袋、マスク、消毒ジェルなど必要な対策を整えるよう要請した。

社 会

「スーパー 自宅待機のため買い物客にぎわう」

Covid- 19 感染者の確認を受けて、マドゥロ政権は不要不急の外出を控えるよう要請している。

ベネズエラ国民は、自宅待機を想定して買いだめを始めたようで、カラカスの地元スーパーは一時的に繁盛しているようだ。



（写真）一般人のツイッター投稿



以上